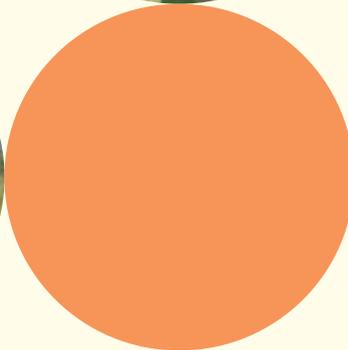
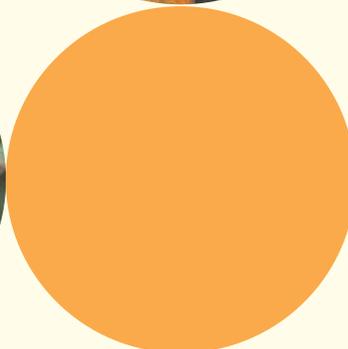
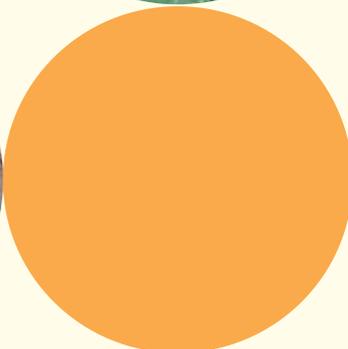


いなみ野ため池ミュージアム

ため池コウノトリプロジェクト
実施計画 概要版



ため池コウノトリプロジェクトとは



「ため池コウノトリプロジェクト」は、いなみ野ため池ミュージアムのシンボルプロジェクトのひとつです。ため池に飛来するコウノトリを、「豊かなため池生態系」のシンボルとし、地域が主体となった生息環境づくりを進めます。

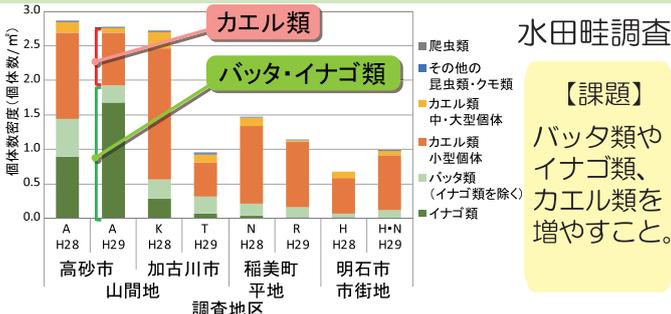
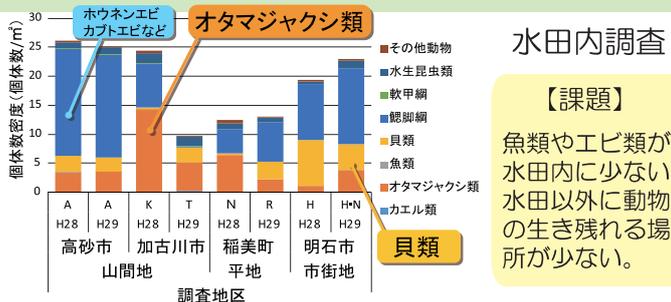
【目的】

- ①ため池・農地・水路等の自然再生による、健全な生態系の復活
- ②地域ぐるみで自然再生などに取り組み、ため池の魅力と価値を高めて、農村地域の活性化、放棄田の減少等、地域コミュニティの活性化
- ③生態系保全・再生を目標とした地域活動で、コウノトリと人が共生できる、豊かで魅力的な地域づくり

現状把握で明らかになった課題解決のための取り組み

東播磨地域の水辺の現状を把握するため、平成28年度と29年度に、餌動物密度調査を水田内（160圃場）、水田畦（160圃場）、ため池（3箇所）、また、4地区にて水系の連続性調査を実施しました。

※水田調査及び水田畦調査は、「水谷瑞希・佐川志朗（2014）,福井県越前市西部地域の春期と夏期におけるコウノトリの餌動物密度の評価,野生復帰」に基づく



水田の調査結果に基づく課題と対策

課題: 水田内外に生息するカエル類などの動物を増やす

対策①水田以外の水域(水たまり)

対策②定期的な畦等の管理



かいぼり調査では、スジエビ、モツゴ、タモロコ、フナ属など30種類の動物が記録されました。稚魚調査では、「浅場」や「植物が生えている場所」、底質が「石混じりの砂の場所」などで多く記録されました。コウノトリが飛来し池の調査結果では、カワリヌマエビ属、スジエビ、ドジョウなど浅場にすむ動物を多く記録しました。コウノトリの採餌環境として、浅場が重要であると考えられました。

【課題】

ため池の魚類などを増やす。魚類などの生息・繁殖できる「浅場整備」や「産卵場」の設置する。定期的な「かいぼり」の実施など環境改善をする。



ため池の調査結果に基づく課題と対策

課題: ため池に生息する魚類を増やす

対策①魚類などの生息・繁殖場所

対策②ため池の環境改善



水系の調査結果に基づく課題と対策

水路や川の接続部などには落差があり、川から水路、ため池など水系の連続性は多くの場所で途絶えています。ため池から下流に向けて水系を繋げる方法が効果的と考えられました。河川事業などを実施する時に、魚類等の移動に配慮した工夫を提案するなどにより川から水路への連続性を確保できます。



目指す東播磨の未来像

ため池と水路網は、農業用水を確保するため、先人の知恵によって築かれた人工的な水域ですが、長い年月の間に様々な生物のすみかとなり、現在はため池特有の生態系が形成されています。里山・ため池・水路網・農地・河川・海などの「水の路」が一体となった東播磨の豊かな自然環境は、多くの生物の大切な「すみか」となっています。ため池を、地域の財産として「守り」「活かし」、次世代へ引き継いでいくためにも、コウノトリが飛来し、さらには定着・子育てし、様々な生き物を育む豊かなため池がある「未来の東播磨地域」像を掲げて、中・長期的な視点で取組みましょう。

実施項目	目標	目標達成年度
かいぼりリレーの開催	2地区以上	2019年
水田ピオトープの設置	3ヶ所以上	2019年
ため池の浅瀬造成	5ヶ所以上	2021年
ため池等を活用した環境学習	年間50回以上	2021年
地域主体の生物保全活動	10団体以上	2026年



活動の目標となる実施（活動）計画

目指す地域の姿



短期 ため池に関わる人が増える
中期 キーパーソンを育てる
長期 キーパーソンが活躍する



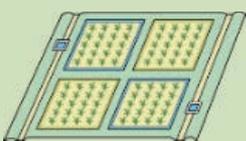
活動目標	①環境づくり			②地域づくり				③人とコウノトリの共生			
	a.生物の現状を科学的に整理しよう	b.多様な生き物が住める環境を増やそう	c.コウノトリが来るような環境を目指そう	a.みんなが、地域の活動に参加しよう	b.ため池を知る・学ぶ場を増やそう	c.豊かなため池をめざそう	d.東播磨のコウノトリを探して教え合おう	a.何度もため池を訪れよう	b.人と人をため池でつなごう	c.ため池を学び、教え合おう	d.地域を支える農業を元気にしよう

目指す自然の姿

環境条件の物差しになる生き物を指標生物といいます。定期的に指標生物の生息・生育状況を調査することで、「活動の達成度」を数値的に示します。

魚道でため池を繋ぐと、魚類が産卵しに水田へやってくる。魚を狙って田んぼにチュウサギが来る。水が枯れない承水路、水溜まり、マスの深場では、トノサマガエルやシオカラトンボが産卵し、メダカなどの魚が増えてきた。ピオトープで増えてきたダルマガエルや魚、トンボやタガメなどを狙い、コウノトリやサギが餌を探し食べている。

短期：1つ1つの水田



ケリ

中期：地域の水田・水路・ため池



カルガモ

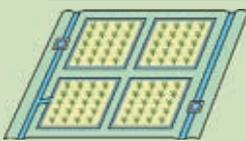
長期：東播磨全体



コウノトリ

出来る活動、場所から取組んで、活動範囲を広げ、東播磨全体で多様な生き物が住める環境を増やす

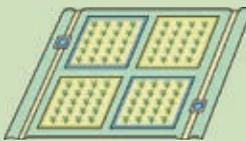
動物の移動経路を確保



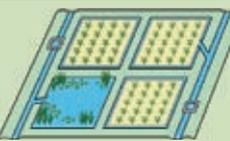
ドジョウ

チュウサギ

水辺を利用する動物の生息場所



トノサマガエルシオカラトンボ



ダルマガエル コウノトリ

浅瀬にヨシが増え、タモロコやタイコウチなど水生動物が増える。小魚やエビ等を食べるカイツブリ、カワセミ、サギ類が来る。次第にヨシ原は拡大、かいぼり等によりヒシ、クロモ、オニバスやアサザなど多様な水草が見られるため池となる。カイツブリなども子育てしている。水辺生態系のシンボル、コウノトリも餌を探して飛んで来る。

短期

少なくなっているが、取組みによって最初に増える生物



ヨシ



タモロコ



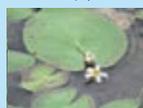
カワセミ



タイコウチ

中期

めったに見かけなくなり、取組みによる回復に時間がかかる生物



ガガフタ



オニバス



パン



コオイムシ

長期

昔はいたが、現在はなくなった、活動のシンボルとなる生物



コウノトリ

ため池コウノトリプロジェクトに基づき、地域のみんで活動をしよう

ため池コウノトリプロジェクト本編に掲載された資料など、東播磨のため池に関する情報を利用して、地域の活動計画を立てて取り組んでいきましょう。

活動のてびき



具体的な活動プランの例

- ① 事前調査等で地域の現状を把握しよう
- ② 地域の問題点・弱点を把握し、解決策を検討しよう
- ③ 中・長期的に活動計画を作成しよう（本編5章 実施計画）
- ④ 地域に最も当てはまる具体的な活動を実施しよう（本編6章 具体的な活動プラン）
- ⑤ 定期的に活動を振り返り、次回の活動プランを作成しよう

実施計画には、東播磨やその他の地域における、具体的な活動プランについて紹介しています。これらを参考にして、現在の活動段階に合わせた、具体的な活動プランを検討できます。いなみ野ため池ミュージアムの「人材バンク制度」と併せて活用できます。

人材バンク制度について

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会では、ため池協議会の活動をサポートするため、各分野の専門家を派遣する「人材バンク」を設置しています。

★こんな時に活用できます★

- ・地域住民の参加を増やしていくためには、どうすればいいのか？
- ・活動がマンネリ化してきたので、新しい活動に取り組みたい
- ・高齢化で活動継続がしんどくなってきたが、どうしたらいいか悩んでいる
- ・小学生の環境学習をしたいが、どうやればいいのか分からない
- ・水質が悪化してきたので、改善するにはどうすればいいのか？
- ・最近、ハスが出てこなくなった。原因を知りたい
- ・外来種（アカミミガメなど）を駆除したい など



- ①困っている事や相談したい事を教えて下さい
- ②事務局が、内容によって、最も適した人材を選んでご紹介します
- ③まずは、役員さん、事務局、客員キュレーターまたはインストラクターと打ち合わせを行い、今後の対応を調整します
- ④集落の話し合いや計画づくり、実践活動まで状況に応じて継続して派遣します

コウノトリの飛来記録（目撃・写真あり）

東播磨に来るコウノトリと注意点など

市町名	地区・ため池名	年度	飛来数	滞在日数
明石市	金ヶ崎	H19	1羽	1日
高砂市	阿弥陀町「新池」	H22	4羽	5～8日
加古川市	上荘町「上池」「東池」「下池」	H24	2～3羽	6～70日
稲美町	「六軒屋池」付近	H24	1羽	1日
高砂市	北浜町「ひょうたん池」	H24	1羽	3日
明石市	西島「納戸池」の南の水田	H25	1羽	21日
明石市	西二見「野ヶ池」	H25	1羽	2日
加古川市	八幡町「カルト池」	H26	1羽	4日
稲美町	加古「布池」南の鉄塔	H28	1羽	1日
加古川市	八幡町下村の農地	H29	4羽	2日
加古川市	上荘町「塔池」	H29	4羽	2日
稲美町	草谷「風呂ノ谷池」など	H29	1羽	25日

コウノトリが飛来したときに気を付けること

- ①コウノトリの観察・撮影等は150m（自動車の中からの場合は100m）以上離れる
- ②無断で私有地や農地に立ち入らない。農道などに駐車して一般通行を妨げない
- ③巣には近づかない。立ち止まらず通り過ぎる（日常生活や農業などは除く）
- ④コウノトリに向かって物を投げる、追い掛け回すなど、驚かすような行為はしない
- ⑤早朝などに大声・騒音を出すなど、近隣住民への迷惑行為を行わない

目視、カメラ、双眼鏡を使って観察し、行動などを記録してみよう。東播磨のコウノトリ情報を集約・共有し、活動に反映していきます。

コウノトリを観察してみよう

【記録内容】

- ①個体情報（足環の色を記録）
- ②確認時間および確認場所
- ③行動 など



足環（あしわ）は両足を見てね

行動の例



いなみ野ため池ミュージアム運営協議会



東播磨を象徴する「ため池群と水路網」及びその歴史的・文化的資源地域の財産として、「守り、活かし、次世代に継承する」ため、農業者はもとより、地域住民、企業、実践活動団体、教育関係者や行政など、多様な主体の参画と協働のもと、東播磨全体を“まるごと博物館”とする「いなみ野ため池ミュージアム」を展開しています。

お問い合わせ先

- 兵庫県東播磨県民局 地域振興室県民課 水辺地域づくり担当
（いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 事務局）
http://www.inamino-tameike-museum.com/
- TEL 079-421-9602（平日9時～17時）FAX 079-424-9977
〒675-8566 加古川市加古川町寺家町天神木97-1
- 東播磨こうネット（コウノトリの目撃情報を収集・発信）
https://www.facebook.com/higashiharimakounet/